

意見交換に当たっての他県等の参考事例

1 異なる学科の高校を統合した他県の事例

学校名	宮崎県立日南振徳高校												
学校規模・ 学科構成	6 学科 6 学級：農業科 1 学級（地域農業科） 工業科 2 学級（機械科、電気科） 商業科 2 学級（商業科、経営情報科） 福祉科 1 学級												
統合年度	平成 21 年度												
統合対象校	日南農林高校（生物工学科、森林科学科、福祉科）3 学級 日南工業高校（機械科、電気科、建築環境科）3 学級 日南振徳商業高校（商業科、経営情報科）3 学級												
特色ある教育活動	<p>（総合選択制の導入）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科で 2 科目の選択科目を設定し、2 年次 2 単位、3 年次 2 単位の計 4 単位を必履修 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>総合選択科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域農業科</td> <td>食品製造、家庭の園芸</td> </tr> <tr> <td>機械科</td> <td>自動車工学、機械製図</td> </tr> <tr> <td>電気科</td> <td>電気応用、工業数理基礎</td> </tr> <tr> <td>商業科 経営情報科</td> <td>簿記、ビジネス実務</td> </tr> <tr> <td>福祉科</td> <td>介護福祉基礎、生活支援技術</td> </tr> </tbody> </table> <p>（他学科と連携した課題研究）</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械科が「農作業の負担を軽減するものづくり」として、20kg 近い重さのバナナ鉢を運搬するためのキャリアを製作 商業科と経営情報科が、地域農業科製造のノンオイルドレッシングを市場（デパート）で販売し、市場調査とデータ分析を実施 	学科	総合選択科目	地域農業科	食品製造、家庭の園芸	機械科	自動車工学、機械製図	電気科	電気応用、工業数理基礎	商業科 経営情報科	簿記、ビジネス実務	福祉科	介護福祉基礎、生活支援技術
学科	総合選択科目												
地域農業科	食品製造、家庭の園芸												
機械科	自動車工学、機械製図												
電気科	電気応用、工業数理基礎												
商業科 経営情報科	簿記、ビジネス実務												
福祉科	介護福祉基礎、生活支援技術												
統合による効果	<ul style="list-style-type: none"> 学校規模の大きさを生かすことにより、生徒同士が切磋琢磨できる環境となっており、活気あふれる学校行事や、たくさんの部活動は学校の魅力の一つとなっている。 総合選択制の導入により、教員間で「他学科の生徒も育てていく」という共通理解が図られた。 他学科の専門科目を学ぶことで興味・関心が広がり、他学科の資格取得を目指して課外講習にも参加し、実際に合格した生徒も多数いる。（第 2 種電気工事士、簿記検定、危険物取扱者等） 教科や学科を横断した取組により、広い視野で物事を考える姿勢が身に付き、地域貢献につながっている。 												
統合による課題	<ul style="list-style-type: none"> 統合当初は各専門学科の壁があり、教員間の意志疎通がうまくいかなかった。 さらに教育効果を高めるため、他学科の生徒が履修できる教科・科目を随時見直していく必要がある。 												

2 異なる学科の高校を統合した他県の事例（校舎制※）

学校名	熊本県立阿蘇中央高校
学校規模・ 学科構成	5学科7学級（校舎制） [阿蘇校舎] 普通科3学級 商業科1学級（総合ビジネス科） [阿蘇清峰校舎] 農業科2学級（農業食品科、グリーン環境科） 福祉科1学級（社会福祉科）
統合年度	平成21年度
統合対象校	阿蘇高校（普通科、商業科）5学級 阿蘇清峰高校（農業科、林業科、福祉科）3学級
特色ある教育活動	（総合選択制の導入） ・2年次、3年次に他学科の専門科目を2単位ずつ履修することが可能 （部活動・行事等の合同実施） ・両校舎間は自転車等での移動が可能のため一部の部活動は一緒に活動 ・行事の合同実施 入学式：阿蘇校舎 体育祭：阿蘇清峰校舎 文化祭：ステージ発表 → 阿蘇校舎、バザー等 → 阿蘇清峰校舎
統合による効果	<総合選択制> ・総合選択制の導入により、他学科の教科を学ぶことができるようになり、生徒間の交流が増えた。 ・普通科の生徒たちも「生きること」や「命」と関わる演習、実習を受ける機会がある。 <校舎制> ・生徒数の増加により、いくつかの部活動では団体競技への参加が可能になるとともに、部活動の選択肢が増えた。 ・他学科の生徒と様々な行事をともにすることは、生徒たちにとって大きな楽しみになっている。 ・教師が校舎間を移動することにより開設科目の幅が広がった。 ・両校舎の施設・設備が活かされている。
統合による課題	<総合選択制> ・総合選択科目や芸術科目など、両校舎にまたがる教科の日程調整に工夫が必要である。 <校舎制> ・農業関係の学科は学科単位での取組が多く、普通科等を含めた「学年団」としての取組が難しい。 ・学力差や理解力の差が大きく、学習指導や評価が難しい。

※ 校舎制とは、統一した基本方針のもとに複数の校舎を持つ1つの学校として機能させるもの。大学で言う「〇〇キャンパス」に相当。校歌、校章、制服等も1つの学校として共通のものとなる。

3 同一学科の専門高校を統合し、学習内容を引き継いだ本県の事例

学校名	青森県立八戸工業高校
学校規模・ 学科構成	7学科7学級：機械科、電子機械科、電気科、電子科、情報技術科 土木建築科（土木コース、建築コース）、材料技術科
統合年度	平成27年度
統合対象校	八戸工業高校（機械科、電子機械科、電気科、電子科、情報技術科、 土木科、材料技術科）7学級 南部工業高校（建築科、設備システム科）2学級
特色ある教育活動	（建築コースの設置：平成25年度） ・「土木科」を「土木建築科」に改編し、建築コースとして南部工業高校の建築科における学習内容を継承 ・卒業後、3年以上の実務経験により2級建築士の受験資格を取得
統合による効果	・建築工学の基礎・基本を学ばせることで、国家資格の取得を奨励し、建築施工等の現場管理者や建築士として活躍できる技術者の育成が可能となった。
統合による課題	・土木コースと建築コースにおける2年次以降の専門科目の授業や実習については、共通履修の科目がなく、コースごとに分かれているため、教室や実習室の確保等に苦慮している。
その他	・南部工業高校の設備システム科における学習内容と農業の学びを融合させ、名久井農業高校に環境システム科を新設したことにより、都市近郊農業に関する知識と技術を身に付けた技術者の育成が可能となった。